

移動市長室

筑紫野中学校生徒会

大樹 — あなたらしさを理解して、

自分らしさを発輝しよう —



通算103回目となる移動市長室を、9月28日(月)に筑紫野中学校図書室で開催し、筑紫野中学校生徒会役員12人と懇談を行いました。



平成29年度から始めた藤田市長と中学校生徒会との移動市長室は、今回で4校目となりました。初めに生徒会からの活動報告とそれを受けての意見交換を、後半には筑紫野市から市の取り組みについての説明を行い、質疑応答を行いました。

伝統をつなぎ、よりよい学校に

筑紫野中学校(筑中)は、生徒数643人で、現在第44期生徒会が活動をしています。代々築き上げてきた「相手を思いやる文化」を大切に受け継いでいるという生徒会。標題のスローガンには、相手も自分も大切にできる学校をつくってほしい、という思いが込められています。「伝統である思いやりの輪を、筑中だけでなく保護者、地域の皆さんに広げていくことを意識しています」

と話す生徒会長の矢敷さん。スローガンに基づき、自主性に富んださまざまな取り組みを報告してもらいました。

あなたらしさ、グッジョブ!

報告を受けた活動の中でも印象的だったのが「グッジョブ活動」。相手のいいところを見つけ、班やクラス、そして全校で共有(グッジョブ)する取り組みです。お互いを認め合い、自分に自信を持つことを目的としたこの活動は、先代の生徒会から引き継いだもの。他校にも発信し、取り組みの輪を広げています。

この日は、生徒会の皆さんから藤田市長をはじめ市職員にグッジョブが。皆さんの明るくはつらつとした「グッジョブ!」の声に、会場は気持ちのよい空気に包まれました。



全員で元気にあいさつ

逆境を乗り越えて

感染症の影響により、制限された中での生徒会活動。自分たちが計画した目標が達成できなかった、と役員は悔しさをにじませます。しかし、だからこそ今できることをと考えた生徒会の皆さんは、さまざまなアイデアを自分たちの手で実現していました。

不安が募る休校期間中、筑中生を勇気づけたいと応援メッセージ動画を作成。その動画は、生徒だけでなく地域の人も届き、元気が出たなどの感想をもらったそうです。「困難を乗り越えた経験が、自信につながりました」と役員は笑顔で話しました。



藤田市長にみんなで「グッジョブ！」



市に貢献できることは

質疑応答の場面では、藤田市長の筑中PTA会長時代の話のほか、感染症関連の予算支出状況など、生徒会の皆さんの市政への関心の高さがうかがえる質問がありました。市長は、初めて開催した筑中友愛セールの様子や、市で行った支援策などを回答しました。また、市の発展のために中学生に期待することは、という質問もあり、「皆さんが生徒会活動に一生懸命取り組んでいることが、すでに市への貢献になっています」と感謝を述べました。

参加者からの感想

・コロナの関係で自分たちの思うような活動ができない中、移動市長室という場で今までの頑張りを伝えることができるとてもうれしかったです。

・普段市長にお会いすることはめったにないので、貴重なお話を聞けて良い経験になりました。意見交換を通して、自分の考えの幅が広がるのを実感しました。

藤田市長の一言

皆さんの気持ちのこもった活動報告をお聞きし、明快に分かりやすく意見を発表する姿勢が素晴らしいと感じました。

「グッジョブ活動」のように、皆さんが受け継いできた輪というのは、社会に出てもずっとつながっていきます。皆さんの姿を見て、次の生徒は学び、後継ができていく。筑紫野中学校から社会に貢献する人材が育っていることが分かり、市長として大変喜ばしく思いました。

市内5中学校の連携も、さらに重要になってきます。皆さんの結束を、後輩に受け渡していつて欲しいと思います。本日はありがとうございました。

